

## 第4回 咲洲庁舎の長周期地震動対策に関する専門家ミーティング 概要

### ■専門家の出欠状況（五十音順・敬称略）

井上 一朗	京都大学 名誉教授 一般財団法人日本建築総合試験所 副理事長 試験研究センター長	出席
大川 出	国立研究開発法人建築研究所 客員研究員 株式会社東京ソイルリサーチ 取締役	出席
釜江 克宏	京都大学 原子炉実験所副所長 教授	出席
川瀬 博	京都大学 防災研究所 教授	出席
竹脇 出	京都大学 大学院工学研究科 教授	出席
多田 元英	大阪大学 大学院工学研究科 教授	出席
福和 伸夫	名古屋大学 減災連携研究センター長 教授	欠席

### ■意見の要点

#### 【咲洲庁舎で考えられる各種対策工法】

- 工法によっては、基整促波、中央破壊波、西破壊波で、それぞれ影響が変わってくるが、どの地震動で考えたらいいか。
- 両方にらんで判断するという事ではないか。
- 中間層免震の場合は、設計で想定されている挙動を万が一超えた場合のフェイルセーフ（装置・システムに障害が発生した場合、常に安全側に制御すること）について、より詳細なアイデアを検討する必要があると感じる。
- 中間層免震で、これぐらい大規模なものの実施例はあるか。工事が終わった後の安全性だけでなく、工事中の安全性にも十分注意しておく必要がある。
- 免震層は1層で集中して吸収するモデルとなっているが、そのときの転倒モーメントの検討はされているか。
- 床の応答加速度はどのくらいか。その場合の家具の安全性については検討されているか。
- ダンパーの追加について、短辺方向はオイルダンパーだけであるが、鋼材系ダンパーを加えて剛性を上げた場合の検討はあるか。
- グラフに関しては、補強前後のせん断力や変形の整合性について確認しておくこと。
- 本日の資料にある上部構造のほか、杭の耐力については検討されているか。
- 超高層の解体については、工法を提案しているゼネコンもあるが、減築についても、現実的にできると考えてよいか。
- 減築は周期を変えることによって応答が小さくなると考えるが、中央破壊波と西破壊波の応答スペクトルを見ると、あまり効果が出ていないように思えるので、ダンパー補強案ぐらいかなという印象。